心と心のかよいあう福祉の情報誌

HOTeye

ホットアイ

2026 Vol.123

P1 特集 社会福祉事業所紹介
働きやすさとケアの質の向上を一体化した取り組み
社会福祉法人博愛会「介護老人福祉施設 博愛苑」

P5 チャレンジ福祉の仕事
社会福祉法人博愛会「介護老人福祉施設 博愛苑」

P6 福祉専門職の紹介
「介護福祉士」
気づきを大切にしてチームケアにつなげる

P7 福祉人材センター情報
保育士等就職支援コーディネーター、保育士キャリアアドバイザーがあなたの就職をお手伝いします!

P8 ボランティア・市民活動センター情報
とっとりボランティアバンク登録団体紹介
「椿の森」を後世に伝える会

P9 ボランティア・市民活動センター情報
鳥取大学附属特別支援学校 高等部専攻科
「ほっこり交流」

P11 ことぶき高齢者情報
ニュースポーツ貸出用具紹介

P12 ことぶき高齢者情報
いきいきシニア

P13 鳥取県社会福祉協議会からのお知らせ

福祉の仕事は、人のため、自分のために可能性のある仕事



生産性向上の推進で生まれた時間を入居者との散歩などにあて、博愛苑の敷地から見える秀峰大山を望みながら穏やかな時間を過ごします

社会福祉法人博愛会
介護老人福祉施設 博愛苑

伯耆町にほど近く、南東に秀峰大山を望む米子市の田園風景の中に
全室個室でユニットケアを行う「介護老人福祉施設 博愛苑」はあります。
博愛苑では、昨年度より職員の働きやすさとケアの質をともに高めるため、
「生産性向上」に取り組んできました。その取り組みが評価され、
このたび『介護職員の働きやすい職場環境づくり厚生労働大臣表彰』の「奨励賞」を受賞しました。
今年度は、これまでの取り組みをさらに発展させるため、
「生産性向上」「生活支援」「人材育成」の3つのチームを編成し、
福祉サービスの質の向上に取り組んでいます。


生活支援チームが企画運営する毎月1回開催される「コーヒー喫茶」では、入居者が各々の都合の良い時間に訪れ、ケーキとともにスタッフとの会話を楽しみます

働きやすさとケアの質の向上を一体化した取り組み

博愛苑では、入居者が入居後も、それまでの暮らしや人とのつながりを大切にしながら、その人らしく生活できる環境づくりに努めています。

そのためには、「介護の質を高めるだけではなく、職員が入居者としっかりと向き合える環境をつくることが必要だと考えています。そこで前年度から、職員が日々の業務の中で感じている負担や課題に目を向け、これまで当たり前に行ってきた業務を一つひとつ見直すなど『生産性向上』に取り組んできました。単に業務を効率化するのではなく、職員の負担を軽減し、そこで生まれた時間や余力を入居者との関わりやケアの充実につなげることを大切にしてきました」と、施設長の渡邉智之さんは話します。

業務改善によって時間を生み出し、その時間を入居者の生活の充実につなげる。そして、その改善を職員自身が考え、実践し、継続できる組織をつくる。職員が働きやすく成長できる環境づくりと、入居者への支援の質を高めることを一体として進めることが生産性向上の目的であり、現在の博愛苑の大きな特色だということです。


生産性向上を推進した増山健一課長

職員自ら考え、実践し、また改善する組織づくり

生産性向上への取り組みに当初から関わり、中心となってきた増山健一課長は「業務や記録方法を見直すことで職員の負担が軽減され、業務内容や役割が明確となることで、慌ただしさや迷いが減り、その結果、職員が落ち着いてケアに取り組めるようになったと感じています」と話します。

そして「特に大きな変化は、職員の意識が変わってきたことです。改善の効果を実感する中で、職員から意見や提案が出るようになりました。また、取り組みを進める上で、管理者と現場職員が一緒に課題を考え、実践し、振り返り、改善する。この繰り返しによって、職員自身が自主的に考えられる組織になることも、重要な成果の一つだと思っています」と話します。

その中で、1日の業務の流れや優先順位を分かりやすくするために導入したのが「マスターライン」というマニュアルです。各勤務帯の業務を洗い出して時間軸で整理し、新人職員を含め、経験年数にかかわらず、誰が見ても次に何をすればよいのかが分かるようにしながら、修正を重ねています。


社会福祉法人博愛会
介護老人福祉施設 博愛苑
渡邉 智之（わたなべ ともゆき）
施設長

「生産性向上チーム」は、入居者のために

「職員が入居者と向き合う時間を増やすために日々の業務を見直し、職員の負担を軽減し、そこで生まれた時間や余力を、入居者との関わりやより良い支援に繋げていくことを目指しています」と、生産性向上チームのリーダー松浦崇課長は話します。

職員アンケートを年2回実施し、その結果をもとに、「この業務は本当に必要なのか」「もっと効率的にできないか」「職員によってやり方が違っていないか」という視点から、一つひとつの業務を見直しています。

その中で特に大切にしているのが、経験年数にかかわらず「誰が行っても同じように業務を進められる仕組みをつくること」だと言います。

さらには「私たちが考える生産性向上は、単に仕事を早く終わらせる

ことではありません。業務の中にある無駄や負担を減らし、そこで生まれた時間を入居者との会話や個別のケア、その方が望む生活を実現するための時間に充てていくことです。そこに繋がって初めて、生産性向上の意味があると考えます」と話します。


生産性向上チームリーダーの松浦崇課長

「生活支援チーム」は、ご入居者の希望のため

「生産性向上で生み出された時間をご入居者の楽しみや、その人らしい生活に繋げていくのが生活支援チームの取り組みです」と話すのは、生活支援チームリーダーの長瀬由卓課長です。

カラオケや映画鑑賞、手芸、脳トレなどの活動に加え、買い物や外出支援、「コーヒー喫茶」などにも取り組んでいますが、単に行事やレクリエーションを増やすことではなく、「この人は何が好きなのか」「これまでどのような生活を送り、博愛苑に入居してからも何を続けたいのか」という視点から、その人の生活を考えることを大切にしています。

博愛苑に入居した後も、それまでの暮らしや人とのつながりをできる限り継続し、その人らしく生活してもらう。そのような支援を、生活支援チームだけでなく、職員一人ひとりが入居者の希望や生活に目を向け、自ら考えて実践できるようにしていきたいと、長瀬課長は願っています。

「人材育成チーム」は、博愛苑全体の好循環を図るため

人材育成チームリーダーの長木大明課長は「生産性向上や生活支援の取り組みを博愛苑全体に広げ、継続していくためには、職員一人ひとりが自ら課題に気づき、考え、行動できるようになることが必要です」と話します。

今年度は、現場責任者を対象とした研修や事例検討、グループワークを行い、職員の意見を引き出す力や、現場の課題を改善につなげる力を高める取り組みを進めています。また、外部研修への参加や資格取得も支援し、そこで得た知識や技術を現場で実践し、職員の学びを博愛苑全体の力へと広げ、その力を入居者への支援の質の向上につなげることを目指しています。


人材育成チームリーダーの長木大明課長

さらに、介護現場の悩みを介護職だけで抱えるのではなく、看護職、管理栄養士、歯科衛生士などの専門職と一緒に考えることで、多職種連携の強化にも取り組んでいます。

「職員が成長し、チームが成長する。その力を入居者へのより良い支援につなげる。そのような好循環を博愛苑全体につくることが、人材育成チームの役割だと考えています」と、長木課長は笑顔を見せます。


入居者が取り組む趣味のちぎり絵を見守りながら一緒に楽しむ

3

働きながら学び、成長できる環境づくり

職員が安心して働き続けられる環境をつくることも、入居者への安定した支援に繋がります。そのため博愛苑では、福利厚生の充実はもとより、男性職員も育児休業を取得しており、仕事と子育てを両立できる環境づくりを進めています。

博愛会では、高齢者福祉だけでなく、生活介護や放課後等デイサービスなどの障がい者福祉事業も行っており、事業所間の交流を通して、子どもたちと高齢者が世代を超えて関わる機会を設けています。

また、博愛苑では、地域のボランティアの協力により、毎月さまざまなイベントを開催して地域と入居者のつながりを保ち、地域の方やさまざまな世代との交流を通して、入居後も社会とのつながりを感じてもらえる環境をつくっています。こうした取り組みは、職員にとっても学びや気づきの機会となっています。

また、新入職員には「チューター制度」を導入し、仕事を教えるとともに、新しい職場で感じる不安や悩みを相談できるようにしています。その後は、キャリアパスに沿った研修を行い、一般職員だけでなく、現場責任者、主任、課長など、それぞれの立場に求められる役割や能力を学び、次に自分が目指す姿を意識しながら成長できる仕組みを整えています。

資格取得についても、実務者研修や喀痰吸引等研修の受講、介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得を支援し、研修日は出勤扱いとするなど、働きながら専門的な知識や技術を身につけられる環境も整えています。

このように、一人ひとりが専門性を高め、自分の役割を広げ、その力を入居者へのより良い支援につなげていくために、新入職員へのサポートから、その後の専門性向上、リーダー・管理職へのステップアップまで、職員が目標を持ち、人として成長できる環境をつくっています。

介護は誰かの人生に寄り添い支えること

「入居者一人ひとりがこれまで大切にしてきたこと、好きだったこと、家族との思い出や長年続けてきた習慣、そして〝これからどう過ごしたいのか〟という気持ちに耳を傾け、人生の最期まで〝その人らしく〟生活できるように支えることが、博愛苑での介護の仕事です。そのやりがいや魅力は、〝誰かの人生に寄り添えること〟であり、その方の〈生活〉そのものを支えていることだと思います」と話すのは長瀬由卓課長です。

博愛苑での生活に入居者を合わせるのではなく、入居者の生活に職員が合わせていく。そうした日々の積み重ねが、その人らしい暮らしを支える介護につながり、その姿を見られることが、博愛苑で働く大きなやりがいであり、介護の魅力でもあるとも話します。


生活支援チームリーダーの長瀬由卓課長



渡邉智之施設長からのメッセージ

福祉の仕事は、人の生活や人生に直接関わる仕事です。決められた介護をするだけではなく、「この方にもっと良い生活をしていただくために、自分には何ができるだろう」と考え、それを実現できることが、この仕事の大きな魅力だと思います。

もちろん、介護の仕事は簡単なことばかりではありません。だからこそ博愛苑では、職員一人に任せるのではなく、介護職、看護職、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士など、さまざまな職種がそれぞれの専門性を生かしながら、一つのチームとして入居者を支えています。

そして今、介護の現場も大きく変わっています。ICTや福祉機器を活用して働き方を改善し、そこで生まれた時間を入居者との関わりに使う。職員自身も研修や資格取得を通して成長していく。

人のために何かをしたい、自分自身も成長したいと思っている人にとって、福祉はとても可能性のある仕事です。ぜひ一度、実際の福祉の現場を見て、そこで働く職員や入居者の姿に触れてみてください。そして、いつか私たちと一緒に、これからの福祉をつくってもらえたらと思います。

[概要]
●所 在 地／鳥取県米子市一部555番地
●開 設 日／1999(平成11)年12月8日
●運営主体／社会福祉法人博愛会
●職 員 数／74名(正職員55名・臨時職員等19名)
内訳：施設長1名、医師1名(嘱託)、生活相談員2名、介護職員55名、看護職員8名、作業療法士1名、介護支援専門員2名、管理栄養士2名、歯科衛生士1名、運転手1名、
協力医療機関：なかむら医院、社会医療法人仁厚会米子東病院
●定　　員／89名(内ショートステイ5名)
●利用(受付)相談窓口／当該施設及び法人内施設





Challenge

チャレンジ福祉の仕事

社会福祉法人博愛会 介護老人福祉施設 博愛苑

福祉分野の質的変化や制度改革などにより、福祉施設などではさまざまなキャリアや資格をもつ人材が求められ、それに応えて働きがいをもって福祉の仕事に新たにチャレンジしている人たちがいます。ここでは、福祉分野の仕事に就労し、情熱を燃やしている人たちを紹介します。

穏やかな時が流れるように支えていく

社会福祉法人博愛会「介護老人福祉施設 博愛苑」
作業療法士 高橋（たかはし） 絵美（えみ）さん



「祖母が認知症になり、自宅で母親が介護している様子を見て、福祉の仕事を身近に感じるようになりました」と話す高橋絵美さんは、学生時代にボランティアで障がいのある子どもたちを支援した経験もあり、福祉の現場で働きたいと思っていました。

入職当初は、現場の職員が忙しそうで、体力的にも大変そうだと思いましたが、人の役に立てたらという思いで頑張っています。

博愛苑の入居定員は84名で、機能訓練は作業療法士の高橋さん1人で担当しています。日々、機能訓練の計画書を作成し、入居者一人ひとりに合わせた個別の訓練やグループでの訓練を行っています。また、関節可動域訓練や麻痺のある方への訓練なども行います。

機能訓練や入居者へのケアを進める上で、多職種との連携を大切にしています。各ユニットのスタッフと相談・協力をしながら、入居者の身体機能を維持できるように支援しています。

博愛苑では入居者の「看取り」まで対応しています。人生の最期まで関わるため、身体面だけではなく、生活の質にも目を向けながら、穏やかに過ごせるよう支援しており、「入居者が楽しく、自由に、穏やかな人生を送られるように関われることが、この仕事の魅力です」と高橋さんは笑顔を見せます。

また、終末期ケアでは、入居者が最期までその人らしく生活できるよう、作業療法士として何ができるのか模索しています。

そして「身体を動かすことが難しくなった入居者も、苦痛なく過ごせるよう、体の圧迫を取り除いたり、同じ姿勢が続くことによる褥瘡（床ずれ）を防いだりするなど、最期までできる限り安楽に過ごせるよう支援していきたいです」と、高橋さんは話します。



歯と口中の健康から身体の健康を見守る

社会福祉法人博愛会「介護老人福祉施設 博愛苑」
歯科衛生士 森田（もりた） 奈保子（なおこ）さん

「博愛苑で働くことによって、ご入居者の〈食べる楽しみ〉を支える手伝いができれば良いと思いました」と話す歯科衛生士の森田奈保子さんは、食べることが栄養を摂って健康を保つためだけでなく、生きる楽しみにもなっていると考えています。

博愛苑に入職して半年余り。それまでは小さな矯正歯科医院という全く違う環境で働いていたため、入居者の生活に関わる博愛苑の仕事では、多くの方の健康を支える上で、他職種との連携が大切だと感じています。

入居者の口腔ケアを各ユニットで月に2回行い、問題点などがあれば他職種と情報を共有し、「こんな口腔ケア用品を使ったほうがよいのでは」とアドバイスをしたりしています。また、診察が必要であれば週に1回の往診につなげています。

日常の歯磨きなどの口腔ケアを行う中で、歯のぐらつきや義歯の具合を確認し、歯周病や咀嚼の問題があれば管理栄養士と相談します。また、嚥下機能の低下によって体重が減ることもあるため、注意しています。

入居者とのコミュニケーションを大切にし、気持ちに寄り添いながら、歯ぐきの状態や口の中の腫れなど、口腔内や全身の状態の変化を見逃さないようにしています。

日々の口腔ケアの後に「〝いつもありがとう〟〝すっきりした〟と言ってもらえた時などに、やりがいを感じます」と、笑顔を見せる森田さんは、「人生の最期まで、口の中を清潔に保ち、気持ちよく過ごしていただけるよう、口腔ケアの技術向上を目指していきたいです」と話し、お口の健康から全身の健康を見守っています。





福祉専門職の紹介「介護福祉士」

気づきを大切にしてチームケアにつなげる



社会福祉法人博愛会「介護老人福祉施設 博愛苑」
介護福祉士 増山（ますやま） 健一（けんいち）さん

介護福祉士は、介護を必要とする方に専門的な知識と技術を用いてケアを行い、本人や介護に携わる方への助言・指導も担う国家資格です。

仕事に就いたときの印象はどうでしたか

実際に働き始めると大変なことも多くありましたが、経験を重ねる中で少しずつできることが増え、仕事を任せてもらえることにやりがいを感じていました。当初は、今ほど「入居者のために何かをしたい」という意識は強くなかったと思いますが、入居者と関わる中で笑顔を見られることは嬉しく、そうした日々の関わりに楽しさを感じていました。

現在の仕事の内容を教えてください

現在は管理職として、主に業務の見直しや職員育成に取り組んでいます。職員と意見を交わしながら、業務の流れや職員配置などを見直し、より良いケアにつながるよう取り組んでいます。また、管理職になっても入居者や職員と直接関わることを大切にし、現場で感じたことや職員の意見を業務改善やより良いケアにつなげるよう努めています。

仕事をするうえで大切にしていることは、どのようなことですか

一番大切にしているのは「今行っているケアは、本当に入居者のためになっているか」と考えることです。業務改善を行う際も同じで、やり方を変える時には、「この変更が入居者にとってどうなのか」と自問します。

また、管理職として職員との関係をつくる上では、普段から気軽に声をかけてもらえるような関わりを心掛け、話しやすい環境をつくっています。私は「コミュニケーションの先に対話がある」と考えており、日頃から良い関係性を築くことで、本音で相談したり意見を出し合ったりすることができると思っています。

仕事のやりがいや魅力などを教えてください

介護の魅力は「人と人とのつながり」にあると思います。特に、入居者との何気ない会話の中から、「こうしたら楽しんでもらえるかもしれない」「こんなこともできるのでは」と考えることに楽しさを感じます。それを実際のケアや活動につなげ、入居者の笑顔が見られたり、感謝の言葉をもらえたりした時は嬉しく思えます。



専門職、プロフェッショナルとしての思いは

介護職員は24時間を通して入居者の生活に関われるからこそ、日々の表情や声、行動など、ちょっとした変化に気づくことができます。その変化を見逃さず、看護職などの専門職と情報を共有し、体調の変化や異常の早期発見・早期対応につなげ、安心してその人らしい生活を続けられるよう支えていくことが、介護職員の大切な役割だと考えています。また、普段の関わりの中から「この方にとって何が最善なのか」を考え、チームでより良いケアにつなげていくことも大切にしています。



将来の夢や抱負をお聞かせください

職員が介護の仕事にやりがいと楽しさを感じ、それが入居者へのより良いケアにつながる、そんな博愛苑にしたいと思っています。職員が仕事に楽しさを感じられなければ、ケアの質にも影響します。そのため、介護現場の生産性向上や業務改善を進め、職員の負担を軽減することで余力を生み出し、その余力を入居者の生活の質の向上につなげていきたいと考えています。